

1. イノベーションを通じた企業活力の向上

最近の日本経済新聞等のメディアから発せられる日本経済に係る情報には本当に気が滅入ってしまいます。ところでユニコーンという言葉をご存知でしょうか。一角獣とも呼ばれ、額の中央に一本の角が生えた馬に似た伝説の生き物です。大ヒット作となった映画「ハリーポッターシリーズ」でも出てきましたのでご存知の方もいるでしょう。

最近、ユニコーン企業と呼ばれる創業間もない企業群が話題に上っています。**ユニコーン企業は企業評価額が10億ドル(約1100億円)以上で非上場のベンチャー企業を指します。**IT系の企業が多いのが特徴的です。現在は上場企業となっているフェイスブック社やツイッター社もかつてはユニコーンでした。孫正義氏が率いるソフトバンクGが1兆円を超える資金提供をした貸しオフィス事業とする米ウィークワークもユニコーンです。

米国のユニコーンは200社ほどで世界の半分を占めているそうです。中国やインド、韓国、台湾などITに強い国々と比較すると**日本のユニコーンは僅か2~3社程度と極端に少ない**のです。どうしてこんなにユニコーン社数が少ないのでしょうか。「日本の経済社会制度の壁」「IT人財の不足」「現状を良しとする風潮」など多様な局面から考察してみる必要性がありそうです。

①「日本の経済社会制度の壁」。新規取引を開始する際、取引実績を重視する姿勢が創業間もない企業にとっては大きなハードルとなっています。

②「IT人財の不足」。世界で戦う大企業ではAIやIOTに精通した人財に乏しい為に、高額な報酬でもって技術者の囲い込みを行っています。③「現状を良しとする風潮」。「**寄らば大樹の陰」「長い物には巻かれろ**」という言葉に代表される様に、**どうも日本人は変化・変革することに躊躇する国民性**を持っています。**この国民性が企業にイノベーションを起こす動機付けを鎮火させてしまっています。**

イノベーションは会社が成長するには絶対必要なものです。同業他社が変化し続けているのに自社が現状維持思考であれば、市場における評価や地位は相対的に低下していくのは間違いありません。**変化を恐れないで下さい。大失敗をやらかした社員に社長賞を出したホンダ創業者本田宗一郎のような心意気が今、最も必要とされているのです。**

2. ONE-TEAMとしての戦い

ラグビーW杯が11月3日に南アフリカが3度目の優勝を果たして44日間の戦いに終止符が打たれました。地元開催で「一生に一度」と盛り上がった日本チームはA組で一位となり初の8強に名乗りを上げました。過去8大会の合計勝利数は僅か4勝です。その内3勝は前回のイングランド大会であげた勝利でした。事前の予想とは大外れ(!)でアイルランドとスコットランドを破っての8強進出。価値ある一次リーグの戦いでした。

この日本国中に感動の嵐を巻き起こした日本チームは“ONE-TEAM”という言葉で語ることが出来るでしょう。代表チーム31名の内、15名が外国出身です。帰化した選手もいますが、半分以上が外国出身となれば戦い方の意思統一は難しかったです。考え方、理解の仕方、努力の方向性等々日本人であってもベクトルを合わせるのは至難の業です。ヘッドコーチはどんな技を使ったのでしょうか。

私は**“ONE-TEAM”という合言葉**だったと思います。W杯終了前後に浮上した2020年東京オリンピックのマラソンと競歩の札幌移転問題。最終決定に至った4者協議の場で小池都知事は「合意なき決定」と発言。それを受けてIOCの委員長は“ONE-TEAM”を口にしました。**自社では経営者から末端のパートタイマー・アルバイトまで“ONE-TEAM”となっているか、今一度確認しておきたいものです。**

3. 書籍のご紹介

今月は[売上を減らそう]をご紹介します。著者は京都市に本店を置く百食屋の代表者中村朱美さんです。百食屋は共同経営者である夫(一級建築士)の賄い飯であるステーキ丼と後2品の3品しか!提供しない食堂です。屋号の百食屋の通り、一日に提供する数は100食です。**営業時間内でも早々に百食出るとその時点で営業終了です。**

従業員は残業なしで正社員の一日の勤務時間は8時間の17時終業が原則です。電話等での予約は一切受け付けず、配付する整理券を取るために11時の開店前に数十人は並ぶという繁盛ぶりです。

「ビジネスとして成り立つか?」という疑問がありますが、売切りで食材在庫0、廃棄ロスなしなど**周到に利益が出る仕組み**を創り上げています。「**こんな発想があったのか**」と気付きがある本です。